

一般社団法人 大学英語教育学会 (JACET)

第 38 回 (2023 年度) JACET 中部支部大会プログラム

The JACET 38th (2023) Chubu Chapter Annual Convention

大会テーマ

AI 時代の英語教育

What can English education do in the era of AI?

基調講演

講師 柳瀬陽介先生

(京都大学)

シンポジウム

講師 柳瀬陽介先生 (京都大学)

佐藤雄大先生 (名古屋外国語大学)

松岡弥生子先生 (University of the People)

コーディネーター 鎌倉義士先生 (愛知大学)

2023 年 6 月 10 日 (土)

開会時間: 午後 13 時 50 分

オンライン (Zoom による双方向同時配信) 開催

<http://www.jacet-chubu.org/>

一般社団法人大学英語教育学会（JACET）中部支部

第38回（2023年度）中部支部大会プログラム

日時： 2023年6月10日(土) 13時50分～18時30分

Zoom開催（事前予約制）

参加費：JACET会員・学生は無料、JACET非会員は1,000円

参加方法：JACET中部支部ホームページ（<http://www.jacet-chubu.org/>）より、事前に参加申し込みをお願いします（先着300名まで）。なお、QRコードは本プログラム最終ページに記載しています。

支部総会 13時50分～14時00分

開会挨拶 14時05分～14時10分 支部長 今井 隆夫（南山大学）

研究発表1 14時15分～14時45分 司会 内田 政一（桜花学園大学）
誘導作文による初級学習者に対するコミュニケーション・ライティング指導の有効性
樋口 晶子（四日市大学）

研究発表2 14時50分～15時20分 司会 江口 朗子（立命館大学）
英文エッセイライティングにおける名詞句の複雑性について：大学生の縦断的コーパスの分析
杉浦 正利（名古屋大学）

研究発表3 15時25分～15時55分 司会 梶浦 眞由美（名古屋市立大学）
生成AIによる難易度を調整した英語テキスト生成：外国語教育への利用に向けて
古泉 隆（名古屋大学）

シンポジウム・講演テーマ：AI時代の英語教育

基調講演 16時00分～17時00分 司会 今井 隆夫（南山大学）

演題：AIの導入で英語授業はより人間的になった ― 実践速報に基づく考察

柳瀬 陽介（京都大学）

シンポジウム 17時10分～18時25分

講師：柳瀬陽介（京都大学）

佐藤雄大（名古屋外国語大学）

松岡弥生子（University of the People）

コーディネーター：鎌倉 義士（愛知大学）

閉会挨拶 18時25分～18時30分

次期支部長 鎌倉 義士（愛知大学）

発表概要

研究発表 1 14 時 15 分～14 時 45 分

誘導作文による初級学習者に対するコミュニケーション・ライティング指導の有効性

The Effectiveness of Communicative Writing Teaching Using Guided Composition for Japanese Beginner Learners of English

樋口 晶子 (四日市大学)

CLT の特徴のひとつは、情報の内容を理解し伝達する能力に焦点を当てている点である。そのライティング指導の到達目標はいわゆる自由に英作文を書けることであるが、英語力のみならず思考力や情報収集力も必要で、初級学習者が習った表現だけで書くことは容易でないことが多い。

本研究では、自由英作文の段階に到達するためのステップとして、誘導という概念を取り入れた指導技法 (Guided Composition) の一つである英問英答 (Question-Answer) を取り入れることで、ライティングにおいて初級学習者が英語で伝えようとする意欲を引き出す効果があるという仮説を立て、大学 1 年生 20 人、2 年生 7 人を対象に 5 回にわたる授業を行い、授業後の学習者のライティングに対する意識の変化及びライティング能力の向上について検証した。授業後アンケートで 21 名が「英語でパラグラフを作ることに気分が楽になった」「とてもそう思う」「そう思う」と答えたが、「質問形式のまま自由テーマを決めたい」と答えたのは、1 年生は 10 名、2 年生はゼロだった。授業前後ともパラグラフを提出した 18 人のうち 16 人が、授業後に総語数が増えた。

研究発表 2 14 時 50 分～15 時 20 分

英文エッセイライティングにおける名詞句の複雑性について：大学生の縦断的コーパスの分析

The Complexity of Noun Phrases in English Essay Writing:
An Analysis of a Longitudinal Corpus of College Students

杉浦 正利 (名古屋大学)

本研究の目的は、英文エッセイライティングの学習過程における名詞句の複雑性の変化とその要因を、縦断的学習者コーパスを用いて明らかにすることにある。Biber ら(2011)が、英文ライティングにおける名詞句の複雑性の重要性を指摘して以来、多くの研究が行われている。Kim (2021)は、韓国語母語大学生の縦断的英語学習者コーパスを分析し、統語的变化について観察した 5 つの言語特徴のうち名詞句の複雑性のみが有意に変化しその値は減少したと報告している。本研究では、日本語母語大学生の縦断的英語学習者コーパス (約 29 万語) を用い、Kim と同様に Syntactic Complexity Analyzer (Lu, 2010) により統語的複雑性を計算し線形混合効果モデルで分析したところ、Kim とは逆に、名詞句の複雑性は有意に上昇するという結果が得られた。本研究で使用したデータは、学習者が毎週別のテーマで 8 週にわたり 8 エッセイを書いたものであるが、グループ A は 1 から 8 番の順に書き、グループ B は 8 から 1 番へと逆順で書いた。そこで、エッセイのテーマの提示順序を説明変数に加えたところ、その違いが名詞句の複雑性に影響を与えることが明らかになった。エッセイの評価はいずれの場合も上昇しているのに、テーマの提示順により名詞句の複雑性が影響を受けるということは、名詞句の複雑性は、ライティング能力の向上とは別に、テーマにより影響を受けると考えられる。

生成AIによる難易度を調整した英語テキスト生成：外国語教育への利用に向けて
English Text Generation with Adjusted Difficulty by Generative AI:
Toward Use in Foreign Language Education
古泉 隆（名古屋大学）

生成AIを利用することで、プロンプトに応じた自然な英語文章が自動生成できるようになった。生成した英文は、語学の教材作成・授業等での活用が考えられるが、学習者レベルやターゲットスキルに応じてテキスト難易度を調整することが望ましい場合もある。そこで本研究では、OpenAI GPT-3を用いて、生成テキストの難易度を調整することができるかを検証した。まず20個のトピックについて100語の英文を書くようにAIに指示し、次に、生成された英文に対して、内容を変えずに各CEFRレベルでのリライトを指示した。リライト英文に対して、テキスト難易度（リーダビリティ、語彙難易度、平均文長）を算出し、CEFRレベルを独立変数、テキスト難易度を従属変数として分散分析および多重比較を行った。結果、各テキスト難易度はCEFRレベル間で有意な差がみられ（ $A1 < B1 < C1$ ）、生成テキスト難易度の調整が可能であることが示唆された。発表では本結果を踏まえ、今後、AIによるテキスト生成が語学の教材作成や授業でどのように活用できるか議論したい。一例として音声合成と組み合わせたシャドーイング教材作成への利用を提案する。

講演概要

16時00分～17時00分

AIの導入で英語授業はより人間的になった — 実践速報に基づく考察

柳瀬陽介（京都大学）

■ 講演概要

生成系 AI (generative artificial intelligence) の急速な浸透を受け、発表者はこの4月から大学英語ライティング授業に ChatGPT を導入した。現時点での使用は主に語彙課題（必須）と英会話課題（任意）である。語彙課題では、学生が自ら書く英文の学術英語としての適格性を ChatGPT に判断してもらい添削・解説を受ける。英会話では学生が Chrome 拡張機能を使って ChatGPT と音声でやり取りをする。発表者はその課題報告を読み助言を加える。どちらの課題においても学生の学習意欲は高まり、学習内容も高度化した。「人間的」という概念の特徴を、(機械と比べての) 情動性、(他の動物と比べての) 社会性、(近代以前の間人と比べての) 自律性と捉えるなら、AI の導入で発表者の行う英語授業はより人間的になった。講演では学生の学習観と発表者の教育観の変化を報告する。

■ 講師紹介

柳瀬 陽介（やなせ ようすけ）

京都大学国際高等教育院教授。同院国際学術言語教育センター英語教育部門長。共通・教養課程の英語科目（主にライティング）を教える。研究は、概念整理の理論研究と自らの実践に基づく実践研究を、哲学的な概念を使いながら行う。研究テーマとしては従来、身体に注目してきたが、最近では AI の急速な進展を受けて翻訳 AI や会話型 AI の授業活用について取り上げることが多い。同時に英語教育部門長としては英語ユーザー（研究者と学生）へのインタビューを実施・公開している。

シンポジウム AI時代の英語教育

17時10分～18時25分
コーディネーター：鎌倉 義士（愛知大学）

17時15分～17時35分

佐藤 雄大（名古屋外国語大学）

現在話題となっている AI 技術 (AI 翻訳、生成 AI) は、そもそもどういった情報を提供してくれるのだろうか？ AI が生成する情報は過去の膨大なデータを統計的に組み合わせたものなので、その点で個人の経験をこえた組み合わせが可能で、教育現場や学習者が今まで気づかなかった盲点に気づかせてくれるような形で教育活動をサポートしてくれるはずである。

このような AI 技術を前に、英語を含めた言語教育は何ができるのだろうか。確かに学習者にとって AI 技術は簡便に「和訳」、「英文作成」をしてくれるから「使える」と感じるはずであるし、教員にとっても機械的に処理できることのサポートとなる。しかし、これらは学習者個人の情報ではなく開放系の「ただ蓄積された情報」にしかすぎない。一方、言語教育では、学習者個人の情報（ことばの意味）を構想し、他者とやりとりする力を伸ばすことが大きな役割である。たとえば現場で学習者がうまく和訳、英文作成できなくてもそれだけを取り上げて「学習できていない」と見なさないのでないだろうか？ 教員は結果にいたるまで学習者がどれだけ考えたかも重要な学習だと考えているはずである。ここが「情報」を起点に AI 技術論と教育を考える上で大切なポイントとなってくる。

今回のパネリスト発表では現在の AI 技術に目配せしながら言語教育で育成したい学習者の「情報（ことばの意味）」に着目したい。その際、認知科学の中でモデル化された「レトリック的状况」を参照する。

■ 講師紹介

佐藤 雄大（さとう たけひろ）

名古屋外国語大学現代国際学部教授。南山大学文学部哲学科卒業後、愛知県立高校で14年間英語教諭として教育にあたる。並行して南山大学大学院で修士号（英語教育）、名古屋大学国際開発研究科で博士号（学術）を取得。専門はライティング教育、ヴィゴツキー学、認知科学を学習研究に応用した学習科学（Learning Sciences）。

近年、日本の大学英語授業では、AI ツールの影響が、より鮮明になった。英語ライティングに関する 2021 年の研究では、日本の大学生に AI 翻訳の使用が広く浸透しており、翻訳された内容の確認に必要な英語力の修得への懸念もあることが分った。アメリカの大学では、剽窃の問題が重大視される反面、AI 翻訳を辞書機能の延長と見る傾向もある。また、昨年末からの ChatGPT を代表とする生成 AI の出現は、学生の英語エッセーや課題レポートの指導・評価に大きな影響をもたらしたが、その使用の実証が困難なため、教育機関全体での共通ポリシーやルール作成が急務となっている。現在、オンラインのディスカッション・フォーラムを通じて同じ職場の教員から事例を収集中である。個人的な見解に欠け客観的で一般論的な文を生成すると言われる AI の特質に加え、これまでに「受動態を多用する」「引用元がないサポートセンテンスが多い」などの指摘がある。教師には、AI の使用を見抜くことと同時に、学生への指導やサポートをどのように行うかということが課題となっている。

■ 講師紹介

松岡 弥生子(まつおか やおこ)

University of the People: Online Faculty & Subject Matter Expert (SME). コロンビア大学 Teachers College にて MA in TESOL, 国際基督教大学 にて PhD. (Language Education and Linguistics) を取得。國學院大學、国際基督教大学教育研究所を退任後、現在、アメリカの非営利型オンライン大学にて世界各国の学生を教え、ESL プログラムの改革にも携わる。主な研究分野は、第二言語習得論とプラグマティクス、英語ライティング、教育におけるテクノロジー、OER など。機械翻訳や AI の教育への影響については、JACET 授業学研究会 (2021) にて発表、名古屋外国語大学での勉強会 (2022) 及び FD 講演会 (2023) にて講演。最近の共著 Ida, H. & Matsuoka, Y. (2023). Posthumanist Approach to the Role of Textbooks that Underpins Student Engagement in English Language Learning under Covid-19: A Case from Japanese Universities. *The Journal of Asia TEFL*, 20(1). 1-13.

ディスカッション 17時55分～18時25分

事務局からのお知らせ

☆ 当日、第1回中部支部総会（13時50分～14時00分）をオンラインにて行います。

2023年度支部大会参加申し込みフォーム

<https://forms.gle/LFshUa8k5RM9DssP9>



JACET 中部支部 HP

<http://www.jacet-chubu.org/>

JACET 中部支部 第38回（2023年度）支部大会 HP

<http://www.jacet-chubu.org/taikai.html>

お問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局：静岡大学 教育学部 大瀧綾乃研究室内

otaki.ayano@shizuoka.ac.jp